

ネギネクロバネキノコバエ、黒腐菌核病を 対象としたネギの防除体系の実証

埼玉県北部のネギ産地では、ネギネクロバネキノコバエと黒腐菌核病という病害虫が問題となっています。いずれの病害虫も土壌中に発生するため、これまでは防除が困難でしたが、発生生態に基づき、効果的な新しい薬剤を組み合わせ、適正な時期に処理することで、十分な防除効果が得られました。また、両病害虫の防除適期が重なるため、同時に防除することができます。

ネギネクロバネキノコバエの発生推移と現地実証ほ場における防除事例



慣行の9回の防除を5回に減らしても、十分な効果が得られました。

黒腐菌核病の重度汚染ほ場における防除試験結果

| | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 販売可能なネギの割合(%) |
|------------|---------------------|----|----|-------------|--------|--------|-----|---------------|
| | 定植時 | | | 生育期(感染危険時期) | | | | |
| 新技術(体系防除1) | ピラジフルミド水和剤(セルトレイ灌注) | | | | 生育期防除① | 生育期防除② | | 76~85 |
| 新技術(省力化防除) | ピラジフルミド水和剤(セルトレイ灌注) | | | | 無処理 | | | 55 |
| 新技術(体系防除2) | ピラジフルミド水和剤(株元散布) | | | | 生育期防除① | 生育期防除② | | 35~55 |
| 慣行防除 | 無処理 | | | | 生育期防除① | 生育期防除② | | 10~17 |

ピラジフルミド水和剤のセルトレイ灌注により、収穫期まで防除効果が持続しました。生育期の防除を追加することで、さらに高い効果が得られました。

ネギネクロバネキノコバエ、黒腐菌核病の防除体系

| 時期 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|-----------|--|------------|----|-------------|------------|------------|-----|
| バネキノコバエ防除 | 定植時 | 成虫発生期 | | 土寄せ前 | 土寄せ時 | 成虫発生期 | |
| | 粒剤による幼虫防除 | 散布剤による成虫防除 | | 粒剤による幼虫防除 | 灌注剤による幼虫防除 | 散布剤による成虫防除 | |
| 黒腐菌核病防除 | 定植時 | | | 生育期(感染危険時期) | | | |
| | ピラジフルミド水和剤(セルトレイ灌注) または ピラジフルミド水和剤(株元散布) | | | | 生育期の防除① | 生育期の防除② | |

両病害虫の防除適期が重なるため、同時防除による省力化が図れます。